

赤水の専門部会設置

地図学会 研究推進、成果公表へ

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）が作成した各種地図の研究などを行う専門部会が、日本地

図学会内に設置された。研究成果を公表していくほか、地理教育への利用普及といった活動を進める方針で、長久保赤水顕彰会（佐

川春久会長）など関係者から期待が集まっている。

オンラインで開かれた同学会通常総会で16日に承認された。名称は「長久保赤

1791年に作成された改正日本輿地路程全図（赤水図）の第2版（高萩市教育委員会提供）

水図専門部会」。主査には日大経済学部教授で同学会の卜部勝彦常任委員長、副主査には同顕彰会の三浦邦明理事がそれぞれ就いた。

部会では、赤水が作成した江戸時代の人々に広く利用された「改正日本輿地路程全図」（赤水図）をはじめとした地図について、最新研究の成果を定期大会や機関誌で公表する。既に行われた研究内容を確認する定例会や、地理教育への普及に向け活用事例の紹介やワークショップ形式の定例会を開く。

佐川会長は「赤水図に関する学術的調査が専門部会の研究者によって推進され、地理・地図教育への有用性と期待が大いに高まってほしい」と話している。

学会と顕彰会はこれまで、赤水の業績や地図の特徴を解説する動画を連携して作成。本年度は、赤水図を教材にした学校の授業方

法の考案を目的に、卜部常任委員長が同市内の中学校で出張授業を行うことも計画している。

（小原瑛平）